2025年度 一般選抜（B日程）入学試験問題

1時間目 （60分）

国 語 ー 2

注 意 事 項

1．指示がある前に問題冊子に触れてはいけません。解答用紙への記入については、後ほど説明があるので、それまでこの注意事項を読んでください。解答上の注意は、次のページに記載してあるので、試験開始の合図後、よく読んで解答してください。

2．解答は、黒鉛筆で記入してください。

3．解答用紙には解答欄以外に次の①～③の記入欄があるので、監督者の指示に従いそれぞれ正しく記入し、マークしてください。正しくマークされていない場合は、採点できないことがあります。

① **受験番号欄**
受験番号（数字部分のみ）を記入し、さらにその下のマーク欄に**マーク**してください。
記入方法については、下の記入例を参照してください。

受験番号欄						
番号欄	1	1	2	1	0	1
マーク欄	⓪ ● ②	⓪ ● ②	⓪ ① ●	⓪ ● ②	● ① ②	⓪ ● ②

② **氏名欄**
氏名・フリガナを記入してください。

③ **解答科目欄**
解答する科目名の下の〇にマークしてください。**無マークまたは両科目にマークされている場合は0点となります。**なお試験問題を見てから解答する科目を決める場合は、試験開始後でもかまいません。

4．大問題 Ⅰ「現代文」は必須です。大問題 Ⅱ は「現代文」（14～22ページ）または「古文」（23～28ページ）のどちらか一方を選択し、解答科目欄の該当個所にマークしてください。

5．問題の文中や設問の ▭ の中の記号は重複を示します。

6．試験中に問題冊子の印刷の汚れ、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、無言のまま手を挙げて監督者に知らせてください。

7．この問題冊子は、どのページも切り離してはいけません。

8．試験終了後、問題冊子は持ち帰ってください。

解答科目欄の記入について

（例）大問題 Ⅱ で現代文を選択した場合

解答科目欄	解答する科目を一つ選び，科目の下の○にマークしてください。	
	Ⅰ現代文 Ⅱ現代文	Ⅰ現代文 Ⅱ古　文
	●	○

（例）大問題 Ⅱ で古文を選択した場合

解答科目欄	解答する科目を一つ選び，科目の下の○にマークしてください。	
	Ⅰ現代文 Ⅱ現代文	Ⅰ現代文 Ⅱ古　文
	○	●

解答上の注意

解答は、解答用紙の解答欄にマークしてください。

例えば、問題 Ⅰ の解答欄 ア と表示のある問題に対して、「①」と解答する場合は、次の（例）のように、問題番号 Ⅰ 、解答欄 ア の①にマークしてください。

（例）

Ⅰ	解答欄 Ⅰ										
	-	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
ア	⊖	⓪	●	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
イ	⊖	⓪	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
ウ	⊖	⓪	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
エ	⊖	⓪	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
オ	⊖	⓪	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨

国語

解答欄は Ⅰ の ア ～ ノ

Ⅰ 次の文章を読んで、後の問に答えよ。

(1)言葉のやりとりとしての「話し合い」の広場は厳密な議論の応酬であるべき「会議」よりもはるかに大きい。そこでは言葉の権力（論力）が相対化されると同時に、言葉の魅力の働く余地が拡(ひろ)げられ、言葉の暴力がその有効性を増してくる。肉体的暴力、社会的権力、金力、個人的魅力といった非言語的な力は影をひそめるが、論力の一人勝ちがホ(あ)ショウされるわけではない。主戦場が言葉のやりとりに移ったとしても、「正しい言葉」の権力（論力）のほかに、「美しい言葉」の魅力や「強い言葉」の暴力が控えている。そして、かりに暴力を(い)キンシできても、魅力は(う)ハイジョできない。相手の「言うことをきく」とき、人間が魅力的だからということがあるのと同じように、その人の言葉が魅力的だからということも大いにある。そのとき言葉の魅力は現実の力として人々を動かしている。

では、(2)魅力ある言葉の具体例としてどのようなものが考えられるだろうか。［ Ⅰ ］、客観的な解答などあるわけがない。魅力は「美しさ」「おいしさ」「心地よさ」「快感」「引力」などに通じる。これが個々人の［ A ］をぬきにして成り立つとは思えない。だが、それでもなお、多くの人が惹(ひ)きつけられる言葉とそうでない言葉がある。同じラーメンでも行列のできる店とできない店があるようなものである。

そこで私は、インターネットで「魅力ある言葉」「言葉の魅力」の文字列を検索してみた（二〇〇四年六月）。五〇〇件以上がヒットして、どんな魅力的な言葉に出会えるだろうと期待に胸を躍らせたのだが、結果は芳しくなかった。もっとも目立つのは商品や仕事を選ぶときの宣伝文句である。たとえば、「なぜかローコストでもハイグレードな仕様ですといった言葉に引き付けられてしまうのは、残念ながら魅力ある言葉なのでしょうか」「完全無料……これ以上に魅力ある言葉があるでしょうか」「最近妙に魅力ある言葉に響くのが『バイキング＆食べ放題』」「ついつい『高収入』という言葉の魅力につられて……」「予約時に『初回限定版』という言葉の魅力に負けた……」など。こうした「魅力ある言葉」「言葉の魅力」を私

は予想していなかった。なるほど「これはお得ですよ」というのも魅力ではある。しかし、言葉そのものの魅力ではなく、商品やサービス、仕事の待遇が好条件であるということにすぎない。［　Ⅱ　］、多くの場合、「言葉につられて（惑わされて、だまされて）飛びついたが、実物は大したことはなかった」という文脈で語られている。人騒がせな「言葉の魅力」である。

いくつか目にとまった表現もある。たとえば、「里川」。最近よく聞かれるようになった「里山」を川にあてはめた新語だが、町に流れ込んでくる川に［　X　］な視点をくわえた表現であり、広く一般化すれば環境政策に一定の力を発揮するだろう。「秘湯」はどこかで聞いたことがあるが、それ自体が比喩になっていて、何となく行きたいような、守りたいような気にさせる。「魔都」は新宿・歌舞伎町や大阪・ミナミの雰囲気を的確につかみ、巨大都市の底知れぬ闇への(ア)畏怖と［　B　］を刺激する。「NGO」も「甘い言葉の魅力」として挙げられていたが、たしかに「非政府団体」なら昔からいくらでもあった。それが「NGO」と呼ばれることで急にカッコよくなった。私自身も「私学こそは本来のNPOでありNGOだ」などと言うことがある。舶来語特有の「宝石箱効果」（注1）に依存してはいるが、それなりの現実的効果もあるはずだ（柳父章『翻訳文化を考える』法政大学出版局、一九七八年。ただし、NGOもNPOも否定形のNon-が頭にくるところが今ひとつ将来性を感じさせない）。その他、「アルピニスト」「ツーリング」「野猫」「舞台に上がる」などの表現が印象にのこった。いずれにしても、(3)こうした言葉が「客観的に」魅力あるわけではない。誰が誰に対してどのような状況で使われるか、その個々の文脈によって、また聞く人読む人の感性によって、魅力の有無が異なることはいうまでもない。

次に、私自身の経験からもう少し考えてみよう。たとえば、政治家の世界にはありとあらゆる力が交錯している。社会的権力、金力、個人的魅力、それに物理的暴力といった力がすべて働くうえに、言葉の力も大いに活躍している。政治家の言葉の力は決して論力という言葉の権力に尽きない。ドウ(え)カツまがいの言葉の暴力が(お)アンヤクすると同時に、言葉の魅力が大きな役割を担っている。人間性はさておくとしても、言葉の魅力の活用に関しては役人や企業人、学者よりレベルが高い。私の場合、すぐに思いつくのが(4)「禊」という言葉だ。もともと神道の用語だが、汚職事件にまつわる灰色議員の身の処し方をめぐって盛んに使われるようになった。「民主主義の原点から、国民に［　Y　］されれば、みそぎが成り立つ」（竹下登（注2））という風に。（　i　）いまでは新鮮さを失い、その(a)神通力は消えているが、この言葉は無視しえない力を発

揮したはずである。「違法献金や贈収賄の疑いのある政治家がどのような形で選挙に臨むべきか」。この問題は当時の自民党や各派閥で何度もとりあげられたはずだ。（　ii　）「これだけ疑惑が深まって世間を騒がせているのだから、いっそ今回は立候補を自粛したらどうか」「いや、起訴されていないのだし、潔癖を訴えて有権者の審判を受ければいい」「潔癖と言ったって世間は信用しないよ」「そうだな……。いや、選挙で汚れを洗い流すんだ。みそぎだよ、みそぎ！」「みそぎ！　いい響きだな。穢（けが）れがあることは認めて、それを清らかな水でそそぐ。それこそ選挙というわけだ」「その通り、選挙に勝てばみそぎがすんだことになる！」。こんな感じだったかもしれない。もちろん、「禊」にはすぐさま反発や非難の声があがった。口先で調子よくごまかしている、だまされるな、というわけである。（　iii　）私自身、この「禊」という、どこかなつかしい言葉が妙に新鮮に感じられた。政治家はさすがに言葉が巧みだなと感じたことを憶（おぼ）えている。（　iv　）ましてや問題の議員たちや支持者の間では、この言葉が少なからざる魅力を発揮したと考えてよいだろう。

政治の言葉でもう一つ、印象に残るものに「粛々と」がある。「緊張して静かに行動する様子」（『新明解国語辞典』）を指すとされるが、最近まであまり聞いたことがなかった。たとえば、明確な反対意見がある状況で正面突破するときに「粛々と採決する」という。その実質は強行採決とはいえ、「静かに厳粛に、整然として、なすべきことをなす」という響きがある。これも口先のごまかしと批判する声もあるが、その響きがよいためか、今では与野党問わず使われている。一般の会社や団体にも浸透しているようだ。「粛々と」の一言で、採決がより受け入れやすくなり、その場に臨む人々（議員、委員）の姿勢がある程度制御されることも期待できる。これもまた表現の工夫からくる言葉の魅力の働きである。

さて、「禊」や「粛々」がまず思い浮かんだのは、生々しい利害関係や勢力関係が渦巻く世界でもなお言葉の魅力が(b)モノを言うことを示したかったからである。［　Ⅲ　］、これらはいかにも政治家くさい言葉であり、現在では(c)手垢（てあか）がついてきたのも事実だ。「どんな汚れも選挙で洗える」「ごちゃごちゃ言わせずに議決する」という多数派の横暴を［　C　］するようで、いかがわしく危険な感じもする。素直に「これが言葉の魅力の実例です」とは言いたくない気もする。

そんなことを考えていたとき、また新しい表現に出会った。「(5)日本に戦争は似合わない！」である。二〇〇四年夏の参議院選挙、喜納昌吉（きなしょうきち）の当選の弁である。反戦平和を訴える沖縄の歌手らしく「すべての武器を楽器に！」を合い言葉にした。これもいい線いっているが、何よりも私は「日本に戦争は似合わない！」という一言にはっとさせられた（『日本経済

新聞』二〇〇四年七月一二日夕刊ほか）。

「戦争」も「似合わない」も、どこにでも転がっている言葉である。ところが、「戦争は似合わない」は初めて耳にしたように思う。一般に「似合う／似合わない」は服装やファッションについて言うことが多い。それと同じように、日本という国に戦争は似合わないと言うのだ。一見すると、軽々しい発言かもしれない。しかし、この表現は大事な所を(イ)衝いている。毎日毎日、私たちは服装に気を配る。着ている服が「似合う」かどうかは一日の気分を左右し、自分の行動に影響するだけでなく、まわりの人々の態度や行動にも大きな影響を与える。服が「似合う」かどうかは誰もが日々対処していかねばならない重大な問題なのだ。しかも、この問題は自分だけではうまく判断がつかないことが多い。自分では似合うと思っていても、人から「似合わない」と言われればぐらついてしまう。逆に、自分では似合わないと思いこんでいても、「似合うね」の一言でその気になることもある。同じように、「日本に戦争は似合わない！」の一言は、他の「普通の国」のような軍備や戦争を容認しはじめた人々の心を大いにぐらつかせるのではないだろうか。

（宮原浩二郎『論力の時代　言葉の魅力の社会学』）

（注1）宝石箱効果――未知の言葉の意味をきちんと理解しない状態で、ポジティブな意味を想像して用いること。中身がわからない宝石箱に素晴らしいものが入っていると期待する様子にちなんでいる。

（注2）竹下登――日本の第七十四代内閣総理大臣。一九二四～二〇〇〇年。

問一　傍線部(ア)・(イ)の漢字の読みとして最も適当なものを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選べ。

解答欄　ア　・　イ

(ア)　畏怖

ア

① かいけい
② かいふ
③ けいふ
④ いけい
⑤ いふ

(イ)　衝

イ

① あば
② つ
③ つらぬ
④ と
⑤ みぬ

問二　二重傍線部(あ)〜(お)と同じ漢字を含むものを、次の各群の①〜⑤の中からそれぞれ一つずつ選べ。

解答欄　ウ〜キ

(あ)　ホショウ

ウ

① ショウメイ写真を撮影する
② 社債のショウカン期限がくる
③ 気温がジョウショウする
④ 計画にシショウを来す
⑤ ゼンショウセンを勝ち抜く

(い)　キンシ

エ

① フキンでテーブルを拭く
② キキンに苦しむ
③ 心のキンセンに触れる物語
④ 村のキンキを破る
⑤ 葉書にキンガシンネンと書く

(う)　ハイジョ

オ

① 学者をハイシュツする
② 勝利のシュクハイをあげる
③ 仏壇のイハイに手を合わせる
④ 月を見てハイクを詠む
⑤ 自動車のハイキに咳(せ)き込む

(え)　ドウカツ

カ

① 新しい刺激をカツボウする
② 真実をカッパする
③ 肌がカッショクに焼ける
④ ショカツの警察署に相談する
⑤ カツモクに値する成果

(お)　アンヤク

キ

① アンカな商品を選ぶ
② 田舎にソウアンを結ぶ
③ アンチュウモサクに陥る
④ 煮物のアンバイを見る
⑤ ダイアンを思いつく

問三　傍線部(a)～(c)の各語句の本文中での意味として最も適当なものを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選べ。

解答欄　ク　～　コ

(a)　神通力　ク

① 普通ではない不思議な力
② 敵(かな)うもののない圧倒的な力
③ 不気味で魔術的な力
④ 得体の知れない危険な力
⑤ 凄(すさ)まじいほどに効果的な力

(b)　モノを言う　ケ

① 他を支配する
② 他を引き立たせる
③ 大きな影響力を持つ
④ 相乗効果を生む
⑤ 利便性を増す

(c)　手垢がついてきた　コ

① 使い慣れてきて愛着がわいた
② 使い古されて新鮮味を失った
③ 使われる中で変質してきた
④ 使う側にとって不都合になってきた
⑤ 使いたいと思わなくなってきた

問四　空欄 Ⅰ ～ Ⅲ に入る最も適当な語を、次の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選べ。一つの番号は一回しか使えない。

①　むしろ　②　しかし　③　だからこそ　④　すると　⑤　もちろん

解答欄　Ⅰ サ ・ Ⅱ シ ・ Ⅲ ス

問五　空欄 A ～ C に入る最も適当な語を、次の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選べ。一つの番号は一回しか使えない。

①　許容　②　恐慌　③　嫌悪　④　好奇心　⑤　主観

解答欄　A セ ・ B ソ ・ C タ

問六　空欄 X ・ Y に入る最も適当な表現を、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選べ。

X　チ
①　クラシカル
②　ソーシャル
③　バーチャル
④　エコノミカル
⑤　エコロジカル

Y　ツ
①　庇護
②　信任
③　追認
④　崇拝
⑤　同情

解答欄　チ ・ ツ

問七　本文から次の文が脱落させてある。元の位置は（　i　）～（　iv　）のうちどこか。次の①～④の中から一つ選べ。　解答欄　テ

しかし、批判者の側も「巧みな表現をするな」と感じていたことは事実だろう。

①（　i　）　②（　ii　）　③（　iii　）　④（　iv　）

問八　傍線部(1)「言葉のやりとりとしての『話し合い』の広場」とあるが、その説明として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選べ。　解答欄　ト

① 議論での言葉のやりとりよりも広く、個人的魅力をも含めた言葉の力が強まり、言葉の暴力よりも言葉の魅力による支配を受けている場。

② 議論の中で言葉の権力が相対化され、言葉から個人的魅力がそぎ落とされてその暴力的な部分と魅力的な部分が明確になっていく場。

③ 言葉の権力が非言語的な力との比較の中で相対化され、言葉の暴力と言葉の魅力がともに人々を動かす論力として評価される場。

④ 「会議」よりも幅広い言葉のやりとりを含み、非言語的な力よりも、論力や言葉の魅力・暴力が強い影響力をもち、人々を動かす場。

問九　傍線部(2)「魅力ある言葉」とあるが、その説明として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選べ。

解答欄　ナ

① 言葉が指し示す内容だけでなく、言葉そのものにも人を惹きつける力がある言葉。
② 言葉が指し示す内容だけでなく、言葉を用いる意志に人を惹きつける力がある言葉。
③ 言葉が指し示す内容ではなく、言葉そのものに人を惹きつける力がある言葉。
④ 言葉が指し示す内容ではなく、言葉を用いる意志に人を惹きつける力がある言葉。

問十　傍線部(3)「こうした言葉が『客観的に』魅力あるわけではない」とあるが、どういうことか。その説明として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選べ。

解答欄　ニ

① 言葉の魅力は数値的にとらえられるものではなく、魅力的だと感じる人が多数派かどうかを言葉ごとに吟味しながらはじめて評価できるということ。
② 言葉に魅力がどの程度あるかは、言葉が用いられる文脈や言葉を受け止める側の感性に左右されるものであり、絶対的な評価を行うことが困難であるということ。
③ 言葉に魅力があるかどうかは、言葉に対する鋭い感受性がなければ判別しがたいものであるうえ、その言葉が使われる文脈によっても変わるものであり、不確かであるということ。
④ 言葉に魅力があるという状態は、研究者によって定義が異なるうえに、言葉を受け止める人の感性や言葉が用いられる文脈の影響を受けるため、非常に曖昧なものであるということ。

問十一　傍線部(4)「『禊』という言葉」とあるが、その説明として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選べ。

解答欄　ヌ

① 本来は神道の用語だったが政治の場で頻繁に用いられるようになった言葉であり、政治的な疑いや汚点という穢れを洗い流すものとして選挙をとらえなおした点が新鮮な響きを持っていた。

② 本来は神道の用語であったが、その意味が政治の文脈で拡大解釈され、選挙で支持を求める政治家が自身の潔白を印象付ける語として巧みに用いられるようになった。

③ 神道の用語としての本来の意味とは逆に、穢れていたものがすでにきれいになった状態という意味合いで、政治の文脈で頻繁に用いられるようになった。

④ 神道の用語としての意味と政治の用語としての意味が混ざり合い、有権者にとって新鮮な響きを持つ新たな言葉として一種の宝石箱効果を持つようになった。

問十二　傍線部(5)「日本に戦争は似合わない！」とあるが、この言葉について筆者はどのように考えているか。その説明として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選べ。

解答欄　ネ

① 通常は平和な文脈で用いられる平凡な言葉を「戦争」と結びつけることによって、戦争を容認するまいとする人々を励まし、社会の趨勢（すうせい）に一石を投じるような効果を与えている。

② 通常はカジュアルな場で用いられる「似合わない！」という表現を戦争についての堅苦しい議論の場で用いることによって、政治的関心の低い人々にも戦争への危機感を抱かせるような効果を与えている。

③ 通常、日常会話では忌避されがちな「戦争」という言葉を、服装やファッションの文脈に紛れ込ませることによって、人々がなかなか口にできなかった思いを表現する効果を与えている。

④ 通常は異なる文脈で用いられるありきたりな言葉どうしを結びつけることによって、戦争を容認しはじめるような人々の心の動きを立ち止まらせるような効果を与えている。

問十三　本文の内容と最もよく合致するものを、次の①～④の中から一つ選べ。

解答欄　ノ

① 魅力ある言葉が力を奮う場面は非常に広く、場合によっては非言語的な力を上回る力をもつことがあるが、このような言葉を生み出すためには、既存の言葉を改変したり組み合わせたりするなど、言葉に新鮮な印象をもたせる工夫が必要である。

② 魅力ある言葉が現実を動かす理由は、その言葉が聞く人の状況を的確にとらえておりその人の感性に合っているからであり、政治家の言葉のように不特定多数の人々に呼びかけた言葉が強い魅力をもつことは非常に稀（まれ）なことであるといえる。

③ 魅力ある言葉が現実を動かす力は非言語的な力と遜色なく、政界のような利害や勢力を争う場でさえその力を発揮しているが、そのような言葉は昔からある言葉や平凡な言葉に新鮮な意味や文脈を付与することで、人々の心を動かしている。

④ 言葉が現実を動かす力をもつ理由は客観的にとらえがたいものではあるが、魅力ある言葉の多くは、社会的権力や金力、人間的な魅力などといった他の非言語的な力と結びつくことによって、言葉の魅力が働く余地を拡げていく傾向にある。

Ⅱ

（現代文）

解答欄は Ⅱ の ア ～ ソ

次の文章を読んで、後の問に答えよ。

白い洗面器のなかは夕やけのように赤く映っていた。十一ぴきいて一ぴきはおまけだそうだ。四十年もの昔、私が子どもだった時分から駄金魚だと十分よく知っている昔がたのものだった。昔なつかしい気もするが、また思えば金魚だけは昔のままにいて、自分ひとりが年を取って損をしたというような、(1)おかしな気もちが動かないでもない。家人はすぐにもう品定めをして、それぞれの鼻扉がきまったらしい。私にはおまけがいいと云う。おまけは一段と小がらで、痩せていて、小づらにくいほど敏捷で、器のなかじゅうをわがもの顔に、襷にかけてつんつん泳いでいる。いかにもおまけおまけして、餌をたべるときなど(a)厚皮にこせついた。

そのまま三日ほどたった。「ほんとによく生きてるよ。死なない金魚だわ」と云われる。死ぬのを待っているみたいな、死なないのが期待はずれのような、しかし生きているのを喜んでいるようにもうけとれる複雑な聞えかたがした。

金魚に猫はつきものだ。うちには二匹の猫がいるが、二ツとも洗面器のまえにすわっては、耳を伏せ、飽きずにじっと見つめている。見ているうちにひとりでに前肢のブレーキがはずれて、ちょっかいが出てしまうようである。そのたびにきびしく叱られた。それでも猫はしつこくそこへすわりこんでいて、しまいにはそのまま潰れて寝入ってしまうこともある。十日ほどもしたあとは、これは取ってはいけないとすっかり覚えこんだらしい。

金魚のほうも人の声や足音を覚えて、餌をほしがって器の縁へ寄りかさなって来ては、口をぱくぱく、水をぴしゃぴしゃさせ、なかには水の外へぐんと頭を突きあげるのもいた。黒い眼が二ツずつ、まあるい口が一ツずつ、赤い鰭としっぽをくねくねさせれば、器のなかの水はいのちに(ア)溢れて軽くさざめく。駄金魚もいっそ気取りがなくてまた(イ)愉しいのである。

二十日を過ぎた。「あきれた金魚だ、まだ死なない」などと、半分は真実へーえといった感心、半分は彼等の頑健を祝福してそんなふうに云われた。金魚は丸く太くて、 I おまけがめざましく大きくなった。私は彼等を呼ぶのに何と呼んでいいか困った。金魚さんやと呼ぶのもうまくないし、金公もへんである。呼び名がないことはなにか(b)片便りのような

じれったさがある。しかし猫どもと金魚との交驩(注1)は、なんとなく成立していた。猫は自分たちの小さいコップから水を飲まず、金魚の大きい器からばかり飲む。猫が水を飲みはじめると、金魚はこぞって浮きあがり、ほとんど脊鰭で舌をこするほど近くを通る。猫に舐められてよろけたようになるのもいるし、猫のほうが(c)顔負けして水飲みを一時中止するときもある。滑稽で、猫もかわゆく金魚もかわいかった。

「おまけだなんて云うの、よさない？　かわいそうな気がするもの」と云う娘の発言にみんなが賛成した。ただ賛成すればいいのに大笑いに笑って賛成した。しかし、(2)笑ったあとがちょいと変だった。めいめい自分たちもどこかおまけ的なものをもっているような気がしたし、それは「おまけおまけってばかにするけれど何だい。ちいっと小がらだという以外には眼も鼻もちがったところはないやい」といった、桂馬筋(注2)の力みかたへつながっているように感じる。云ってみれば、思いがけないおまけの筋をぴんと引っぱられて、指のさきだか口のはただかがぴくぴく引っつったようなものである。おまけとはいったい何だろう。

毎年、お盆の前後が暑さはいちばん烈しい。夏もまっさかりという感じである。Ⅱ　金魚も暑いかして、日ちゅうはものうく動いた。夕がたのすず風が立つころになってやっと浮いて来るような日が、二日三日と続いた。そしてその夕がた、気がつくとみんな元気になったなかに、おまけだけがぼんやりしていた。それでも餌をやる声をかけると、ぼんやり気がついたふうに寄って来たものの、食欲旺盛のほかのに阻まれると、へたへたとうしろへ押しやられたなりそこにじっと浮いている。(3)水はおまけのいまわりのところだけとろりと濃く、まるで重みを含んでいる異質のもののように見えた。翌朝はもっとずっと悪くなっていた。いのちがあるというばかりの状態で浮いている。

「おまけおまけって云われながらこれで死んじゃうんでしょうか。私は(d)身につまされます。とうに五十を過ぎて、ときどきは息子たちにもおまけの人生だなんて云われ云われしてるんですから、これで死なれちゃいやな気もちです」とお手伝いさんが云う。

誰もおまけのいのちを案じているが、いまはおまけという名がよけいで、Ⅲ　「おまけどうした？」と訊けない心もちがある。別の鉢へ移したが、その日はことに暑くて、その暑さも頂上の一時過ぎ、おまけは突然狂ったように横転逆転して、故意かとおもわれるばかりに方々へ頭をうちつけて悶えた。そしてそれがとまったら、平たく浮いてしまった。同時

に魚のまわりの水はぴたりと板になった。どうせだめなら試してみようというので、仁丹(注3)を二十粒ほど落した。薬が溶けはじめ、香気が水をつらぬくらしかった。見ていてもおまけの腹はぴたりと動かない。あきらめて、――けれども、すぐには棄てられもせず、そのままに置かれた。しばらくしてひょいと見れば、おまけは底へ降りて、溶けた薬を一心にたべている。けろんと元気になった。薬で赤く染った水は、おまけといっしょにさらさらと軽く動いている。

「やあ、おまえ生きちゃったのか」と云われた。助かったから、おまけはやっぱりおまけで通すよりほかなかった。

ことしは早い颱風だと警報が出た。まだ遠い颱風ではあるけれど、天候に魚は敏いものだ。洗面器のなかに飼われても、金魚がいかに小魚でも、魚の本能は失っていない。恢復したおまけを入れて十一ぴきの全員は、暴風まえの食いだめを促されて、足音のたび、声のたびにしきりに器の縁へ寄りたかって餌をせびった。子どものだだっ児というようすだと云いあって、人は人の食事をはじめたけれど、暑さ負けの人には金魚の食欲はなかった。たべていて、ふと縁に猫の影、――それもうちのではないという直感で、影を見たようにおもったときは、もう遅かった。荒らされた。赤い小魚は顚倒して右往左往に走り、呼び声にも餌箱の音にも信用を置かなかった。

一ぴきは影ものこさず足りなくて、もう一ぴきはおまけが胸鰭とえらをやられて、片泳ぎになっていた。剝がれた赤い鱗がきらりきらりと沈んだり煽られたりしている。傷められたおまけは金魚の名に背かず、器のなかにただ一ぴきの美しさをひろげて片息でいた。こんどこそおまけは死んだ。傲りもなく、しかも美しさをとどめて死んでしまった。

私たちはおまけもかわいそうだと思ったが、(4)もっとしんみりつらかったのは、いなくなったそれをどうしてもはっきり思いだすことができなかったことである。あんなに一ツ一ツ丹念に見つめ、そして一ツ一ツに平等な餌のやりかたをしようなどと、心づかいのたけを見せようとしあっていたにもかかわらず、こうなってみると、さてどれがいなくなったのか思いだす手がかりは誰にもなかった。かわいがりぶって、ごたくを並べていたって、なんにも知っちゃあいないんじゃないか？おまけだけが死んだのじゃない、形もなく持って行かれたというのに、おまけだけが金魚の名に背かない美しい死の代表のように思うとは。

その晩からかけて翌日は、予想のとおりざっざという降りだった。魚は餌にもつかず、えらさえあまり動かさず沈んでいた。そうした嵐の雨があがると、木の葉は青く洗われ、土は黒くよみがえり、九ひきにへった洗面器のなかもやはり花やか

に赤かった。実際の季節より暦は一ト足早い。それよりまた一ト足早く金魚のさやかな鰭に、私は(5)秋の気落ちを感じている。

（幸田文「金魚」『精選女性随筆集　第一巻　幸田　文』所収）

（注1）交驩――親しく交わること。
（注2）桂馬筋――将棋の桂馬の駒のように、まっすぐ進まずひねくれているさま。
（注3）仁丹――森下仁丹株式会社が販売している口中清涼剤。

問一　傍線部(ア)・(イ)の漢字と同じ音読みをする漢字を、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選べ。

(ア)　溢　ア　①　韻　②　逸　③　謳　④　怨　⑤　凸

(イ)　愉　イ　①　潤　②　唯　③　雛　④　郵　⑤　臾

解答欄　ア　・　イ

問二　空欄　Ⅰ　～　Ⅲ　に入る最も適当な表現を、次の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選べ。

①　さすがに　②　おもむろに　③　つとに　④　ことに　⑤　すなおに

解答欄　Ⅰ　ウ　・　Ⅱ　エ　・　Ⅲ　オ

問三　二重傍線部(a)〜(d)の各語句の本文中での意味として最も適当なものを、次の各群の①〜⑤の中からそれぞれ一つずつ選べ。

解答欄　カ　〜　ケ

(a)　厚皮に　カ

① とげとげしく
② 空々しく
③ ずうずうしく
④ 弱々しく
⑤ 仰々しく

(b)　片便りのような　キ

① 不公正に感じる
② うとましく感じる
③ 胡散臭く感じる
④ 物足りなく感じる
⑤ 難しく感じる

(c)　顔負けして　ク

① 動揺して
② 圧倒されて
③ 疲弊して
④ 混乱して
⑤ 焦燥して

(d) 身につまされ

ケ

① 同情して
② 達観して
③ 俯瞰(ふかん)して
④ 嫌悪して
⑤ 反省して

問四 傍線部(1)「おかしな気もち」とあるが、どのような心情をおかしいと感じているのか。その説明として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選べ。

解答欄 コ

① 自分が子どもだった四十年もの昔と変わらない姿の金魚が存在するのにもかかわらず、自分ひとりが老いて姿が変わったことが信じられないと感じる心情。

② 金魚は自分が子どもだった四十年もの昔から変わらない姿のままでいて、自分ひとりが不公平に年を取ってしまったかのように感じてしまう心情。

③ 金魚に自分が子どもだった四十年もの昔を鮮やかに想起させられたことで、自分ひとりが年を取って変わってしまったことを耐えがたく思う心情。

④ 金魚は自分が子どもだった四十年もの昔から変わらない姿でいるのにもかかわらず、自分は年老いて醜くなってしまったことを認めたくないと思う心情。

問五　傍線部(2)「笑ったあとがちょいと変だった」とあるが、その理由の説明として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選べ。　解答欄　サ

① 「おまけ」という言葉の響きに、逃れられない不吉な運命のようなものを突きつけられた気がしたから。
② 「おまけ」という言葉がもつ残酷な響きに、自分たちの救いがたい性向を感じ、嫌な気持ちになったから。
③ 「おまけ」という言葉によって、自分たちの引け目に思っている部分を思いがけなく刺激されたから。
④ 「おまけ」という言葉が含む哀れみの感情をきっかけに、日頃忘れていた悲しみをまざまざと思い出したから。

問六　傍線部(3)「水はおまけのいまわりのところだけとろりと濃く、まるで重みを含んでいる異質のもののように見えた。」とあるが、この表現の説明として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選べ。　解答欄　シ

① 「おまけ」が生にしがみつく様子を、「おまけ」の周囲の水の状態を感覚的に描写することによって、臨場感をともなって表現している。
② 「おまけ」が生と死の狭間にいる様子を、「おまけ」の周囲の水の状態の描写と重ね合わせることで、「私」の複雑な心情を表現している。
③ 「おまけ」の生命が息づく様子を、「おまけ」が周囲の水と接している状態の描写によって、生理的なイメージをともなって表現している。
④ 「おまけ」の生気が失われている様子を、「おまけ」の周囲の水の状態のたとえによって、触覚的なイメージをともなって表現している。

問七　傍線部(4)「もっとしんみりつらかった」とあるが、このときの「つらかった」ことの説明として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選べ。

解答欄　ス

① いなくなってしまった金魚に対しても、「おまけ」と同等の愛情を注いでいたつもりであったが、「おまけ」の死だけが心に残ったことによって、その愛情の薄さを自覚させられたこと。

② いなくなってしまった金魚に対する愛情が、「おまけ」に対する愛情よりもいいかげんであったために、彼らの死を防げなかったことへの後悔がいっそう強まってきたこと。

③ 「おまけ」以外の金魚を贔屓にしていた家族でさえ、いなくなってしまった金魚の姿形をすぐに忘れてしまったことで、自分たちの金魚に対する愛情がただの自己満足であったと自覚させられたこと。

④ 死体が残っている「おまけ」よりも、跡形もなく消えてしまった金魚をあわれむべきであるのに、「おまけ」の死に様の美しさだけが意識されてしまい、罪悪感が募ってきたこと。

問八　傍線部(5)「秋の気落ち」とあるが、どのような心情か。その説明として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選べ。　　解答欄　セ

① 夏らしい景色と生き残った金魚の様子に触れるほどに、それらとは対照的な秋という季節と「おまけ」をはじめとする金魚たちの惨めさをまざまざと思わずにはいられない心情。

② 鮮やかな夏の風景の中で生き残った金魚の赤い鰭を見て、却(かえ)って「おまけ」をはじめとする金魚たちの姿を秋に重ね合わせながら、物悲しさや憂いを覚えてしまった心情。

③ 生き残った金魚を鮮やかな夏という季節に重ね合わせ、死んでしまった「おまけ」をはじめとする金魚たちを物悲しい秋に重ね合わせながら、両者の生命力の格差を嘆く心情。

④ 生き残った金魚の様子が夏から秋にかけて変化する様子から、「おまけ」をはじめとする金魚たちの死後の時の経過の残酷さを実感し、夏の終わりと憂鬱な秋の到来を悲しむ心情。

問九　本文の内容と表現についての説明として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選べ。　　解答欄　ソ

① 「私」の心の動きを金魚の様子や気候の劇的な変化と連動させながら描写することで、幻想的な雰囲気を全体にもたらしている。

② 金魚の様子、季節の移り変わり、「私」の心情という三つの様子を絡め合わせながら、それらの変化を生き生きとした筆致で描いている。

③ 「私」の心の動きを猫や金魚などの動物の視点から描写することで、俯瞰的かつ細やかに心情の変化を描写している。

④ 金魚が気象の変化に反応して行動を変えている様子を丁寧に描写することで、「私」の金魚への愛情を間接的に描いている。

Ⅱ

（古文）

解答欄は Ⅱ の ア ～ セ

次の文章は、夢のお告げを受けた「中納言」が、亡き父の生まれ変わりの「三の皇子」（第三皇子）に会うために、日本から唐に渡った後の場面である。これを読んで、後の問に答えよ。

三の皇子は、内裏のほとり近く、河陽県（注1）といふところに、おもしろき宮造りして、そこをぞ御里にし給へる。母后ももろともに住み給ふ。皇子の御消息あり。かぎりなくうれしくて参り給へり。ところのさま、ほかよりもいみじくめでたく、水の色、石のたたずまひ、庭のおも、梢のけしきもいみじうおもしろし。こなたに召し入れたり。御年七つ八つばかりにて、うつくしうて、うるはしく(ア)鬢づら結ひ、装束きておはす。(1)ありし御面影にはおはせねど、あはれに、さぞかしと(2)見たてまつるに、(a)涙もこぼるる心地し給ふ。皇子も御けしきかはりて、(i)おほかたのことども仰せ(あ)られて、言葉にはのたまはで、昔を忘れぬに、かく逢ひ見つるよしのあはれを書きて賜はせたるに、いみじう(ii)念ずれど涙とまらず。その御返しの文、雲の浪煙の浪と、はるかにたづねわたりて、生を隔て、かたちを代へ給ひつれど、あはれになつかしく、ふるさとを恋ふる心も、たちまちに忘れぬる心を作りて見せたてまつるに、(b)皇子もえ堪へ給はず。

（注2）上なんどのおぼしまどひしを、さしあたりて見し折は、などかかることを思ひよりけむと、くやしうおぼえ、道のほどはるかに心細く、いかになりぬる身ぞ、とおぼししを、いでや、思ひ立たざらましかば、(c)いかにいみじういぶせからまし、と、よろづ、この御前にては、なぐさみて、頼もしううれしと思へるけしきを、皇子はあはれにかぎりなく思ひたれど、(3)人目には、そのことをおぼえ顔にもかけ給はぬを、かしこう、いうにもおはするかな、と見たてまつる。母后、いといみじう時めき、皇子のおぼえもすぐれて、片時見たてまつらではえおはせねば、かばかりおもしろう遊びよくおぼさるる河陽県にも、(d)心のどかにもえおはせざりけれど、中納言に、つねにむつれまほしくおぼされければ、言のがれつつ、里がちに(4)なり給ひぬ。

（『浜松中納言物語』）

（注1）　河陽県――唐の地名。
（注2）　上――日本にいる中納言の母。

問一　二重傍線部(i)・(ii)の各語句の本文中での意味として最も適当なものを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選べ。

解答欄　ア　・　イ

(i)　おほかたの　ア

①　個人的な
②　重要な
③　細々とした
④　つまらない
⑤　あたりさわりのない

(ii)　念ずれど　イ

①　祈っても
②　こらえても
③　思っても
④　頼んでも
⑤　求めても

問二　波線部(ア)「鬢」の読みとして最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選べ。

解答欄　ウ

①　か　②　かみ　③　ひん　④　びん　⑤　ひげ

問三　波線部(あ)「られ」の文法的説明として最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選べ。　解答欄　エ

① 尊敬の助動詞の未然形
② 尊敬の助動詞の連用形
③ 受身の助動詞の未然形
④ 受身の助動詞の連用形
⑤ 可能の助動詞の未然形

問四　傍線部(a)～(d)の現代語訳として最も適当なものを、次の各群の①～④の中からそれぞれ一つずつ選べ。　解答欄　オ　～　ク

(a)　涙もこぼるる心地し給ふ　オ

① 涙がこぼれなさったことにお気づきになる
② 涙がこぼれるようなことをなさる
③ 涙がこぼれるほどの気持ちにおなりになる
④ 涙がこぼれるような気持ちにさせなさる

(b)　皇子もえ堪へ給はず　カ

① 皇子も言葉を発することがおできにならない
② 皇子も涙をこらえることがおできにならない
③ 皇子もつらい気持ちを我慢することがおできにならない
④ 皇子も面影を思い出すことがおできにならない

(c) いかにいみじういぶせからまし キ

① どうしてたいそう腹を立てているのか
② どうしてこれほど不愉快な気分なのか
③ どんなにかひどく気がかりだっただろう
④ どんなにかひどく疑り深くなっていただろう

(d) 心のどかにもえおはせざりけれど ク

① 心穏やかにしてくれることもなかったけれど
② 心穏やかならずその場にはいらっしゃらなかったけれど
③ ゆっくりといらっしゃることは全くなかったけれど
④ ゆっくりといらっしゃることはできなかったけれど

問五 傍線部(1)「ありし御面影」はどのような面影か。その説明として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選べ。

解答欄 ケ

① 皇子の前世である中納言の亡くなった父親の生前の面影。
② 皇子の血縁である中納言の亡くなった父親の生前の面影。
③ 皇子の前世である中納言の亡くなった父親の幼い頃と似ている面影。
④ 皇子の血縁である中納言の亡くなった父親の幼い頃と似ている面影。

問六　傍線部(2)「見たてまつる」・(4)「なり給ひぬ」の主語は誰か。最も適当なものを、次の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選べ。

解答欄　(2) コ　・(4) サ

① 三の皇子　② 母后　③ 中納言　④ 帝　⑤ 上

問七　傍線部(3)「人目には、そのことをおぼえ顔にもかけ給はぬ」とあるが、これは誰のどのような様子か。その説明として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選べ。

解答欄　シ

① 三の皇子が、前世で中納言と父子関係であったという事実に対する戸惑いを、周囲に隠している様子。
② 三の皇子が、前世の息子と再びめぐり会えたことに対する感慨深い思いを、人前では表に出さない様子。
③ 中納言が、亡き父の生まれ変わりである三の皇子と再会できた喜びの気持ちを、人前では抑えている様子。
④ 中納言が、三の皇子が亡き父の生まれ変わりであるという事実を、周囲に悟られまいとしている様子。

問八　本文の内容に最もよく合致するものを、次の①～④の中から一つ選べ。

解答欄　ス

① 中納言は三の皇子に会うという目的を達成したものの、母を故郷に置いてきたことを悔やみ続けている。
② 中納言は父の生まれ変わりである三の皇子が田舎に追いやられていることを心配している。
③ 中納言は唐で三の皇子に会えたことを喜び、皇子も中納言に会うため河陽県に多く滞在するようになっている。
④ 中納言は三の皇子に亡き父と似た部分を多く見つけて懐かしく思い、河陽県に頻繁に訪れている。

問九　『浜松中納言物語』と同じ平安時代の作品を、次の①～⑤の中から一つ選べ。

①　『沙石集』　②　『夜の寝覚』　③　『出雲国風土記』　④　『新花摘』　⑤　『玉勝間』

解答欄　セ

〔国語　終わり〕

このページは余白です。メモなどに使用してください。